

「well-being」を考える-自記式質問紙調査の結果から-

○松岡奈保子¹⁾、筒井昭仁^{1,2)}、守山正樹^{1,3)}、中村譲治¹⁾、西本美恵子¹⁾、
 柏木伸一郎¹⁾、川上 誠¹⁾、岩井 梢¹⁾

1)NPO 法人ウェルビーイング 2)福岡歯科大学口腔保健学講座 3)福岡大学医学部公衆衛生学教室

【背景】今大会のメインテーマである well-being は「安寧、幸福、福祉、健康」などさまざまな意味を含み、多様な捉え方ができ、言葉の整理や、定義は明らかにされていない。

【目的】本調査は、自由に語られた対象者の言葉から well-being の特徴を明らかにし、現実的な意味を浮かび上がらせる事を試みた。

【対象者】2011年2月「well-being を語る」を目的として集まった17名(男性:女性 10:7、30代:40代:50代:60代 3:7:5:2)。

【方法】17名を3グループに分け、個人が well-being という表現でイメージする言葉を思いつく限り、ポストイットに記入して貼りだし、グループで集約化、構造化を行った。構造化したものは参加者全員に発表し、内容、経緯を共有した。その後、①あなたにとって(1人称)、②あなたと周りの人々-家族、友人、職場の仲間にとって(2人称)、③私たちが生活している地域、社会にとって(3人称)の well-being とは?という自記式質問紙調査を実施し、記述内容を演者の一人が性別・年齢に分類し、その特徴の検討を行った。

【結果】①1人称の質問にたいして

- ・ 男性:ありのまま、普通に、意識をせず、自由に、生きていける
- ・ 女性:ゆとりを感じる、心地よい状態、リラックス
- ・ 健康に関する表現として、病気もなく、まず健康、仕事、運動、旅行ができる

②2人称の質問にたいして

- ・ 男性:お互いの存在を認め、自立して自律した行動ができる、仲良く、支えあう
- ・ 女性:思いやり、会話、笑顔、一体感、尊重

③3人称質問にたいして

- ・ 30代、40代:個人を尊重し助け合える事、自立した人どうし相互の支え合い
- ・ 50代、60代:おかげさま、安心できるし落ち着ける、寿命を全うできる

【まとめ】

1) 全対象者の回答を通覧すると本調査では

「well-being=〇〇」という画一的な表現は見当たらず、回答者の人柄を思い浮かべられるような、豊かで多様性を持った回答が得られた。well-being は、個々の対象者が各々の立場でその意味を語る事が可能な言葉だということができる。

- 2) 1人称の質問には、男性では〈doing〉、女性では〈feeling〉で現される言葉が多くみられた。
- 3) 健康は前提条件である可能性が認められた。
- 4) 2人称の質問には、女性は具体的な会話、笑顔などの表現がみられ、楽しく、大切になど1人称ではみられない表現もあった。
- 5) 3人称の質問では 30、40代と50代以上で表現に差がみられた。
- 6) 苦悩、苦痛、憂鬱などの表現は全く認められなかった。

【ご意見をもらいたいこと】well-Being という言葉は、性、年代による差異はあるか?健康との関係は?苦を表す意味は含まれないのか?など。well-being に興味のある様々な分野の方の参加を希望します。

(連絡先) 松岡奈保子 (NPO 法人ウェルビーイング) E-mail:rh8n-mtok@asahi-net.or.jp